

平成27年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日時

平成27年10月15日（木）18：30～20：59

2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

（1）委員（12人）

会 長：宝田 恭之〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学教育学部 教授〕
天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕
大澤 豊〔桐生商店連盟協同組合 理事長〕
田中 忠雄〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
佐羽 宏之〔2015年の公共交通をつくる会 会長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
川島 悦雄〔桐生瓦斯株式会社 総務部参事〕

（欠席者2人）

委 員：糸山 和久〔桐生商工会議所 副会頭〕
栗原 和人〔桐生広域森林組合 総括課長〕

（2）事務局（4人）

鳥井副市長
和佐田企画課長
金子環境都市推進係長
松島主事

4. 議題

- （1）桐生市環境先進都市将来構想の進捗状況等について
- （2）桐生市環境先進都市将来構想の推進に係る委員意見・提案等について

5. 議事要旨等

(1) 桐生市環境先進都市将来構想の進捗状況等について

①市の実施計画に係る平成27年度の進捗状況等について

②市民・事業者向けアンケートの実施について

③研究機関の取組について

i)宝田先生より低温ガス化技術関連及び創発的地域づくりによる脱温暖化プロジェクトに関する取組について説明

ii)根津先生より「メイド・イン桐生の小水力発電設備」の研究開発及び地中熱利用システムに関する取組について説明

iii)天谷先生より低速電動コミュニティバスMAYUに関する取組について説明

□桐生市環境先進都市将来構想の進捗状況等について報告事項として説明

(委員意見 ※詳細はP. 3~8参照)

(2) 桐生市環境先進都市将来構想の推進に係る委員意見・提案等について

□今回出された意見等を会長と事務局で調整し、協議会の意見としてとりまとめることので承される。

(委員意見 ※詳細はP. 8~13参照)

(3) その他

今後の予定及び委員謝金についてのお知らせ

□協議会の意見を市の各部局へ周知し、協議会の意見を踏まえた来年度予算の編成について検討するよう依頼する旨のお知らせ

□来年度予算に関わる意見については、今後2週間程度追加で受け付ける旨及び予算に伴わない意見については随時受け付ける旨のお知らせ

□委員謝金について、今年度の協議会の出席回数に応じた謝金を11月中旬頃支払う旨のお知らせ

6. 委員意見（質疑応答）

〔議題1〕 桐生市環境先進都市将来構想の進捗状況等について

【会 長】

立地適正化計画とはどのようなものか。策定すると国から予算がつくのか。

【事務局】

立地適正化計画については、居住機能や医療・福祉・商業など様々な都市機能を誘導してコンパクトに集中させるエリアを設定するものとなっている。コンパクトなまちづくりと地域の交通を再編して連携させることによりコンパクトシティプラスネットワークを構築するもの。全国的にも低炭素まちづくり計画を策定している自治体は、H27.3現在で19団体だが、立地適正化計画については、H27.7現在で198団体となっており、策定した後の支援措置等を考えると市としてはこちらに取り組んだ方が良いという担当部局の判断となった。また、策定することにより、国からハード事業などに支援措置が得られることになると思われる。

【事務局】

低炭素まちづくり計画の方が規模の大きなまち、あるいは地代が高く駐車場が設置できないような悩みを抱えるまちの中で、共同の駐車場をつくるなり鉄道の乗り継ぎで切符を買い換えなくともいくつもの会社にわたる通し切符があり、乗り継ぎを容易にするなり、ある程度都市機能が充実していても公共交通の利用に繋がらないというような課題を解決するための施策が中心となっている。それよりも桐生市としては、立地適正化計画に従いコンパクトなまちをつくっていき、コンパクトで一番便利な場所、地域に対して様々な場所から公共交通でこれるように充実させるというような方が桐生市の形態にとっては合っているため、優先して取り組もうということである。

【委 員】

電動アシスト自転車の補助については現在どのような状況か。順調に進んでいるのか。実施計画をみると3年間ずっと続けていく事業となっているため、しっかりと予算を消化できるようなものとした方が良い。

【事務局】

今年度は約70件の補助枠となっている。現在は半年分ということで29件だが、昨年度同期と比べると多くなっている。H24から始まり、初年度が100台を超え、H25が83台、H26が41台となっている。

【事務局】

補助実施初年度は、需要が沢山あり予算が足りなくなるなどがあった。最近では内端になりつつあるのは事実であるが、自転車への転換が進むように継続して補助を実施し、PRに努めることでまだ需要は担保できるものと考えている。

【委員】

この実施計画について、ある程度計画通り進んでいるのか否かの判断はどのようにみたらいいのか。

【事務局】

取組項目によりどの程度進んだのかは差があるが、実施内容に書かれているものについては、全く手をつけていないものはあまりなく、実績としてどこまで満足できるかは難しいが、少しずつ進捗はしているという状況となっている。毎年毎年の指標というものはないが、10年間での指標については構想本体の中で示している。

【委員】

この実施計画を作成する際には、スピード感を持ってという意見が委員からあり、今年度は初年度ということで今後の見通しなど進捗を毎年チェックしていくということがあったかと思うので、そのような見方も必要である。

【事務局】

H27年度の実施計画については、予算が先に決まっており、その後に完成した。H27年度の取組については概ね計画通り進捗していると思われるが、まだ上半期で下半期もあるため今後さらに進めていきたいと考えている。H27年度よりもH28年度の方が今後の予算などが絡んでくるため、しっかりと取り組んでいくことが必要であると考えている。

【委員】

農産物などの地産地消の実践について、えきなか市や梅田ふるさとセンターの運営という箇所、やっているというのは分かるが、これらの施設や事業が発展的な方向にあるのか、仕方なくやっているのか、運営している組織に対するインセンティブみたいなものがどのように働いているのか。

【副会長】

えきなか市について“ゆい”でも関わりをもっている。えきなか市については、新里・黒保根からも出展していただいております、6年間継続しているため、少数ではあるものの毎週日曜に行くと野菜が買えるということも大分周知されてきている。売上はどれだけあるかは分からないが、市民が協力して新里・黒保根で作ったものを桐生のまちの人も買えるということでは人気がある。梅田ふるさとセンターについても、中々車では行けない人が目的地としておりひめバスを活用して行くという話も聞いており、市民の声であるためこれがどのように作用するのか数字などは分からないが、良い話は聞いているため、評価に値するものではないかと考えている。

【事務局】

梅田ふるさとセンターとくろほね・やまびこについては、市の施設であり、指定管理者制度で地元の方に管理運営をお願いしている。市が直接運営するのではなく、地元の方が民間の視点で様々な知恵を絞って運営することで集客力を高めてくださいとしている。その変わり、赤字が出ないような形で運営部分を支援しており、利用者も増加している。また、利用者の要望により地元産品を使って加工品を作り、販売するという流れも特にくろほね・やまびこでは盛んに行われている。地元で自家消費で消えてしまっていたものもそれぞれ色々な消費者に流通するような形もできてきている。その他、くろほね・やまびこではインターネットで注文を受け出荷するという動きも進んでいる。地域内の野菜をそれぞれがいただけるような消費が進んでいるというのは事実であると考えており、発展方向にあるということで御理解いただいて良いと思う。

【会 長】

今の農産物の進捗状況など、どのように進んでいるのかはこの場でなくともどこかで評価する場はあるのか。環境先進都市というところの評価軸はあるのか。

【事務局】

それぞれの事務事業に関しては、事業評価や行政評価ということを行っている。評価の視点はそれぞれ違うが、考え方としては人件費プラス事務費・事業費がいくらかかったのか、かかった支出に対してそれ以上の効果が生まれているのかという評価を行っている。例えば環境の視点のみの評価ではなく、投入した資源が成果に繋がっているのかということを行っている。環境先進都市というところの評価軸という視点は現状ない。

【会 長】

ないということであれば、例えば、今の農産物のところで売上が伸びなくとも人が多く訪れたということであれば、すごく評価できることであり、そのような評価をポジティブにしたいと考えたとき、ここに出ていれば良いと思う。また、先ほどの例でMAYUについても費用対効果を考えたときは少ないと思うが、コミュニケーションが生まれるようなことについてはものすごく大きな評価であり、そのようなことが分かるように来年でもいいが検討してもらいたい。

【事務局】

二次的効果や波及効果は中々数値化できないものであり、それが数値化できれば良い。想定していなかった波及効果が出れば良い。

【委 員】

えきなか市の話で、MAYUについては、買物に使っている人が沢山いる。えきなか市がある日に中々出て行きづらいお年寄りが多くいるような所からMAYUを運行

するようにするなどの工夫が必要である。それぞれ単独で考えるのではなく、関連付けてクロスさせることで相乗効果があると思われる。

【事務局】

現在は試験運行1年目であり、使用用途の把握など需要調査を行っているところである。また、土日については、観光関係で活用しており、限りある車両を効率的に活用するという点では、どうしても平日の運行となってしまう。さらに、医療機関へ行くという方も多くおり、平日の運行の方が良いということもあるが、えきなか市へ足を運びたいという要望が多くあれば別の考え方を持たなければならないと考えている。

【委員】

MAYUのみではなく、例えば路線バスにもえきなか市の情報を出すなどの一工夫もあるのではないかと考える。

【事務局】

えきなか市で出していただける農産物の量と現時点で購入される方の関係でもっとPRする必要があるということであれば、色々な形で積極的にPRし、駅に沢山の人が集まることで駅を中心にした活気やにぎわいが生まれるということに関していえば、公共交通の利用促進など、色々なことに効果があると考えている。

【委員】

自家用車で買物に行くのではなく、このようにバスを活用すれば簡単に買物に行けるなどができれば、マイカーの利用が減るのではないかと考える。

【委員】

えきなか市について、実際には駅中ではなく駅前となっており、その辺をJRと協議が進めば良いと考えている。また、JRの場合は次の駅が市外となってしまうので、公共交通の利用を考えると上毛電鉄やわたらせ渓谷鐵道での開催についても検討した方が良く考える。

【副会長】

市民向けアンケートの結果で補助金があれば導入したいという意見もあるが、現在どのような設備に対して補助が出ているのか。

【事務局】

太陽光発電、太陽熱、エコキュート、エネファーム、電動アシスト自転車、LED照明が該当しており、太陽光発電とともに省エネルギー設備などを設置する場合に補助を出している。補助額は1kWあたり2万円で上限6万円となっている。

【委員】

電動アシスト自転車の補助件数について、普及が進んでいることで段々減っているということだが、自転車そのものも重要であるが走る道の整備も必要となってくる。実施計画で県との連携でピクトグラムの設置とあるが、具体的にはどこで行っているのか。今後、9路線で設置とあるが、この計画が進んでいることを市民へアピールするには道路は見えやすいので一つの宣伝効果としては非常に良い。ただ本当に走りやすくなったのかという検証も必要になると思われる。

【事務局】

既に設置されている路線としては、西桐生駅前の信号から堤町方面へ向かう道路や錦桜橋から新桐生駅へ向かう道路にH26年度に自転車は左側通行という青い矢印表示や自転車のマークなどを何10メートルかおきに表示している。また、H27年度は桐生駅南口から本町通りまでの高架下の道路について表示を予定している。

【委員】

ピクトグラムを設置しても道の改良が進んでいなければ逆に自転車が走ることが危険なことがある。北国に行くとき結構走りやすいまちが多く、ここら辺では車が入り出す所だけ歩道が低くなっているが、北国ではそのような所がずっと続いており、その理由としては、歩道まで車道と一遍に除雪をするためらしく、これが自転車では大変走りやすくなっている。前橋にも最近同じようなつくりになった所として、弁天町の北側のアーケードを出た所がずっと歩道が繋がっている。これを将来国交省として、県として進めるのかがあるが、車はここ、自転車はここ、歩行者はここというのを分離すればいいという考えがあるものの、そのように分離するほど余裕がないところもある。道路によっては歩行者が誰もいない所もあり、自転車通行帯は必要だが、いざという時は車との混在を避けるため少し歩道へ逃げられるような配慮などがされていることが一番走りやすい。電動アシスト自転車に乗る方は高齢者が多く機敏にハンドルを操作することは難しい。桐生の場合には坂も多いため電動アシスト自転車は大変有効な交通手段であり、目に見える形で道路の整備をやっていくというのは宣伝効果も高く市民からの評価も出てくるといいと考える。前橋でいうと駅から前橋女子高に向かう歩道が平坦になっており、大変良くできている。結局高校生が通る場所に重点的にピクトグラムを設置するのが良い。高校生が一番自転車の乗り方でトラブルが多いので、具体的にいうとJR桐生駅の駐輪場から出た高架下の所が道が細く危ないため、そのような場所を市が率先的に行うと良いと考える。

【委員】

小水力関係で規制緩和を要望とあるが、具体的にはどのようなことを行ったのか。

【事務局】

市長会を通じての要望ということで、桐生市からいくつかの要望をあげる中の一つとして、再生可能エネルギーが普及していくためには法律上の規制や手続きが煩雑であるということがあるため、具体的なものではなく全体的なものとしてそれらを是正するための要望となっている。

【事務局】

やり方としては、地元選出の国会議員を通じて文書で要望をした。

【事務局】

地元選出の国会議員を通じて直接お願いをすれば、国の担当部局とコンタクトをとることはできるが、一自治体の意見等については消極的であるため、全国の市長会が束になり、再生可能エネルギーの活用についての考えを持っている自治体が協同して国へお願いをしている。その結果、少しずつではあるが、手続きの煩雑さが緩和されたり、水利権の活用に関しても小規模なものについてはこうですというような動きがあるのは事実となっている。

〔議題2〕桐生市環境先進都市将来構想の推進に係る委員意見・提案等について

【委員】

「再生可能エネルギーが大量に導入されたまち」という地域の姿を見返して思っていたが、28・29年度もこのような内容で本当に「再生可能エネルギーが大量に導入されたまち」ができるのかと思うと非常に無理であると感じた。市が行おうとしている取組だけでまち全体に再生可能エネルギーを大量に導入するというのは無理だと思う。そういう観点でみると、地域の目指そうとしている姿とここに示す計画とが乖離しているように見えてしまう。同じく「省エネルギー型のまち」についても市民の人たちと一緒に節電ということなり、群大もエコ通勤をしているが、そのようなことがあまり入ってきていないと思われる。

【事務局】

この実施計画については、市民や事業者の取組については示していない。それはこの会で皆さんから事業者に対してもこういうことを求めるべきではないのかということや市民の運動としてこういうことを広めていった方が良いのではないのかということについて、意見をいただきながら担当部局とも相談しながらどういったところに協力をいただき取組を推進していくのかについて考えていくべきであると思っている。この実施計画はあくまで行政が主導的に予算を獲得して進められるものでなければ、民間頼み、市民頼みのものを実施計画として責任持って計画通り推進しようというものを作ることは非常に難しいため、これは行政主導でできる範囲のものであるということでも理解していただきたい。

【委員】

そのようなことであれば、やはり市民へこういう働きかけをするなり、そのような取組が入っていないと、市民へ伝わっていかないと思う。

【事務局】

必要に応じて見直しを行っていくが、そのような部分については、行政主導以外の計画を作るということであると、関係機関の皆さんと意見交換をしながら作るというやり方も一つであるし、こうした推進協議会の皆さんが協議会としてこうすべきという提案をいただいた上で調整を図っていくということで進めていかないと行政が勝手にそんなことを決めてやろうといってもそうはいかないということにもなるため、その点は御理解いただき、必要に応じてそのような意見は出していただきたい。市民が中心となって活動していただくということで、誰もができるような取組・運動について、ここを発信元として広げることができれば、ある意味お金を沢山かけて行う行政の事務事業よりはるかに効果のあるものが出てくると思っている。

【委員】

市が主体となって取り組んだ方が良くと思うことについて、市とすると環境に資する取組についての啓発が重要となってくると考えるが、自分も2005年から10年間公共交通を生かしたまちづくり活動と市民活動で取り組んできたが、その中で移動手段は公共交通のみではなく、色々な手段と合わせて利用しなければいけないということが分かってきた。まず、自転車の活用については、ある程度の速度を出して走れる自転車モデル都市をつくるということ。また、狭い道路を広くするのは非常にお金がかかるため、現在取り組んでいることは、「右折は社会の迷惑です」運動で渋滞の原因となる狭い道路での右折を止め、車の燃費も良くなっているので多少遠回りをして左折をして目的地にという活動を企業等の通勤等で取り組んでもらったらどうかというもの。それと里山が荒れているということで、藻谷さんの里山資本主義で取り上げられているエコストープの活用を図り、里山の復活と防災用としても生かすこともできるというもの。そして、企業の取組としては、ISOが2015年版に切り替わり、実際に会社が行っている事業と規格がきちんとリンクして動いているかということについて評価が集中することとなる。事業と認証制度が一体となって運用できればエネルギーや会社の信頼なり、多くの効果が得られるということもあるため、認証制度取得について企業へ働きかけを行うことで総合的に化石由来のエネルギーを使わず、再生可能エネルギーの活用である程度桐生市がエネルギー独立の方向へ繋がることになると思われる。いざという時にエネルギーの枯渇に困らないまちをつくるということを市が啓発していただければ市民もそのように思いやすくなると思う。

【委員】

安全な道路環境の整備ということで、どのくらい予算規模や整備を考えているのか。

【事務局】

こちらも皆さんから預かった税金を使ってどの程度できるのかとなると、ここに大きなお金を使うよりも他を優先してということが出てくるのも事実となっている。その中で、国の政策で安全な道づくり事業などがあったり、年によりかまぼこ道路の解消が対象になるなどがあれば1億2億のお金をかけ一斉にあちこちの道路を整備したり、斎嘉の前の道路もそうだが国頼みの部分もある。そのため一概にいくらぐらいのお金をかけてということはいえないが、市費として投入できるお金はある程度決まった額を毎年つけている。国の交付金や補助金が毎年変わるので一概にいくらということはいえない。安全な道に関しては、歩道と車道との段差解消について、本町1・2丁目で進めているが、その範囲であっても警察の規制を覆すのが非常に大変で苦勞をした。やはり国としては、段差があった道路では事故が防げたものが、段差がなくなったことにより人を殺めてしまったりしたことが起こった場合などを考え、警察は非常に敏感となっている。今回は各十字路の所に石柱のような車が入り込まないものを設けることとしている。現状では多くの条件をクリアした上でできるような実態となっている。

【委員】

住宅関係でリフォーム補助金があり、子育て世代に対しては補助率が高くなっていると思われる。太陽光発電については既に補助があると思うが、例えばペレットストーブや地中熱利用システムなどを導入した際にリフォーム補助金を増していただくなり、新築する際にも何かしらの補助金が市から出るということになると建築業界としては推進しやすくなる。

【事務局】

環境にやさしい設備を併せて設置することで環境先進都市にも一歩踏み出すことができるということもあるので、多少コストがかかってもそのような設備を付けてみたいというお宅の背中を押すことは非常に大事なことでないと認識している。どの程度の余分なコストがかかるのかということがシステムによってあると思うが、そのような視点での補助金のかさ上げ等については検討する必要があると思っているので、環境先進都市将来構想を実現させる上では、そういう視点で補助金の積み増しを検討してもらうよう住宅関連の補助を出している部局などに働きかけをしていきたいと考えている。

【委員】

市民の活動という中で、意外とエネルギーのことを知らない人が多いため、ここに行くとエネルギーのことを知れたり説明してくれるというようになると、家

族で行くなり、みんながエネルギーを知るきっかけになると思われる。例えば自転車でくるとポイントが2つもらえるというような多少遊び心も入れながら、エネルギーを知れる仕組みをつくと桐生の子どもは皆エネルギーのことを知っているということに繋がると思う。どこでエネルギーのことを知れるかというのは調べていただき、できれば自転車で行ける範囲の所が良いと思われ、また、市内を回る活動の一つとしても次年度に向けてできれば面白いと思う。電動アシスト自転車はゆいでも貸出しをしているので乗ってみてまずは体験してもらい、知ることから進めても良いと思われる。

【委員】

この計画の中に市民の方へ啓発活動をするというようなことをちゃんと書き込んでおかないと、やらないままに何々の支援というようなことだけになってしまうので、プロジェクトチームを作るなりした方が良い。また、地方創生予算についても申請されなかったと伺ったが、桐生の規模であればそのようなことにもっとチャレンジして良いと思われ、勿体無いことであると思われる。

【事務局】

地方創生に関しては、要望しようと各部局が色々と動きを見せ、内閣府と調整してブラッシュアップしたが、全ての提案について難しいという回答をいただいてしまい、結果的には最終的な申請には至らなかった。

【委員】

そのようなことであれば、申請が通っているところもあるので、どこかに理由があると思われる。そういうことをすぐやれるように庁内でプロジェクトを立ち上げるなり、市民も巻き込むなりしていかないと他の自治体に負けてしまい勿体無いと思うので、環境先進都市ということを謳うのであれば、先進的なことを行い、それをやれるような仕組み作りが必要であると思う。また、赤岩用水の水利権について、現在取り扱えない状況であるため、クリアすることに取り組んでほしい。

【会長】

今の桐生の状態であれば、市民全員を挙げてまちづくりに対するアイデアを出したり、予算をとってくるなり、市のみに責任を押し付けているようではだめで全員が責任を持ってやらないとならないと考えている。何かあったときに少人数の専門家が集まってアイデアを出し内閣府にダメ出しされないようなものを皆が結集してできれば良い。桐生市全部の知恵を結集してダメ出しされたら仕方がないが、市役所の人も様々なことをする間もないと思われるため、皆で助け合うなど一つの仕組みとしてつくり、何かあれば関係者をすぐ集め提案を出すというようなことができれば良い。市の予算のことを考えればやはりもっと外から予算を持ってこないといけないと思う。

【委員】

桐生ファンも日本に結構いて、手伝いますという方も多くいる。

【委員】

黒保根は過疎地域で空き家が増えており、どこが空いているのかという話もいただくことがある。県外でも他の地域でもいいが永住でなくとも雪がなく道が安全な1年の3分の2ぐらいのときに年がある程度いった方を対象に二重生活を勧めたらどうか。

【事務局】

そのことは空き家の活用など環境面でもいえることで、また地方創生では首都圏からの人の流れをつくるという中で田舎暮らしをしたいという方も多くおり、そのような方の背中を押すような施策を早くやったところが勝ちということもあるので、そういう視点での考え方は大いに成果が期待できると考えている。市では空き家対策室を設置し、空き家の実態調査を始めようとしている。1万軒程あるという空き家について、少し直せば使えるというような所やそのまま使えるというような所で住み替え需要を持っている方の対象になるような所がどのぐらいあるのかという調査を行い、それを持って仲介のようなことを行い活用していただくことについては、これから考えていくべきことであると認識している。ただどうしても街なかの中心市街地周辺がもしかすると先になってしまうと思うので、そういう所とは別に田舎暮らしをしたいという方の要求に応えるためには、黒保根町等に専門のスタッフ職員などをおいて一つ一つ調査をして作り上げ、全国に向け発信できれば良いと考えている。このことは地方創生の考え方の中にも盛り込んでいきたいと考えている。

【会長】

立地適正化計画が根本になると思われる。他のものはそれができあがった段階でそこにぶら下がっているものであり、例えば電動アシスト自転車なり自転車が走りやすい道路などについては、街をどうするのかというところがないと結局道路の整備計画もできないと思われる。H30年度までに策定とあったが、それこそお金を沢山使っても良いから桐生市民が夢を持てるようなビジョンを作り上げる方が先ではないかと思う。そうしないと例えば公共交通もこれからどのような街をつくるか分からないのにその後の整備もできないし、他のものがぶら下がっていけないため、是非急いでいただきたい。しかもそれが上手く国の予算を活用することであればそのようなロードマップを作ってしまう、国が変わったとしても桐生の計画を示し、予算を持ってくるようにできれば良い。本当はH28年度に策定するぐらい大プロジェクトにした方が良くと思うが、これこそ市民合意を得ないと進められないので、必要があれば我々もいくらでも協力するし、予算を使って専門家を呼んできたら良いと思う。また、バイオマスに関しては、炭火の活用がライフスタイルに直結しCO2削減に影響するため、森林資源が豊富な桐生市として

も取り上げていただきたい。中々バイオマス発電については、FITが使えるようになってきているが、我々のエネルギーのどれぐらい賄えるかという点で非常に小さいものであり、炭火であるとライフスタイルが変わってくる。自分で使っていると意識も大きく変わってきてそっちの方がずっと気分が良いものとなる。それともう一つ車によるCO2の排出量の割合が多いということで、これは一人で1台に乗っているためであり、諸外国をみると車に2人3人乗るとこのレーンを走れるなりメリットがある。桐生みたいに1車線のところは意味がないと思うが、例えば3人乗って買物に行ったら少し安くなるなり、そういったことがまた家族のコミュニケーションにも繋がっていくと思われる。そうすると車の台数も渋滞も減り、CO2も減り、自転車も走りやすくなると思われる。

— 以上 —